

会議録
令和6年度 第3回総合教育会議

- 1 日 時 令和7年3月19日（水曜日）
午後2時45分～午後4時20分
- 2 場 所 市立中央図書館2階 視聴覚ホール
- 3 出席者 市長 星野 光弘
教育長 山口 武士
委員 宮 陽一
委員 深井 美千代
委員 横田 豊三郎
委員 深野 はるみ
- 4 署名委員 委員 宮 陽一
委員 深野 はるみ
- 5 説明職員 総務部長 古屋 勝敏
教育部長 磯谷 雅之
学校統括監 武田 圭介
公共施設マネジメント課長 甲佐 隆志
教育政策課長 中島 雄一
学校教育課長 大竹 宏治
小中学校連携
教育推進担当課長 鳥山 裕貴
- 6 事務局職員 政策財務部長 水口 知詩
政策企画課長 荒田 和久
政策企画課副課長 川村 達也
- 7 傍聴者 0人
- 8 議 事 (1) 小・中学校プールの共同利用について
(2) 学校施設における公共施設マネジメントの推進について

【星野市長】

それでは、本年度3回目の総合教育会議となりますが、3学期の会議を開催させていただきたいと思います。教育委員の先生方には、教育委員会に引き続いての会議ということになりますが、お時間をいただきまして誠にありがとうございます。

本日の議題につきましては、「小・中学校プールの共同利用」と「学校施設における公共施設マネジメントの推進」ということで、この2つを議題とさせていただきます。

これまで施設について、総合教育会議の中で取り上げたことはございませんが、私どもの本庁舎を含め、公共施設を今後どうしていくかといったことを第1期基本計画の中で、公共施設マネジメント課で位置付けさせていただいて、これまで準備、議論をさせていただいたところでございます。

学校の校舎やプールといった施設が、こういった課題を抱えているのか、また、どのような形で学校という施設を未来へ繋いでいくのかということについて、これまで市長部局では議論を行ってきたところでございます。とりわけ、私どもの小学校・中学校17の施設につきましては、昭和40年代から50年代の第2次ベビーブーム世代に対応するということが、大変多くの学校を建ててまいりましたが、もう間もなく建築後40年50年を迎えることとなります。一部では、すでに長寿命化という考えを持って大規模改修工事を進めているところでございますが、今後ますますこの課題が大きくなってまいります。すべて建て替えという判断をしますと、1,000億円を超える投資になろうかという状況でございます。したがって、私どもの体力を持ってしても、また今後人口が減るというトレンドの中では、対応しきれないというのが現実でございます。これをどのように、縮めていくかというのが大きな課題となっております。

そうした中、学校の統廃合や義務教育学校、学区の再編など、地域の要としての学校の在り方など、大変多くの課題がございます。学校を中心とするまちづくり、日本社会、富士見市においてもそういった意思をもって学校づくりをしてまいりました。現在も町会やまちづくり協議会などの学校区を単位として自治が行われております。そうした背景があるわけでございますが、センシティブであり、また大胆に進めなければならないということも一方ではあるわけでございます。

本日、会議の中で委員の皆様方にお示しさせていただき、忌憚のないご意見を頂戴したいと考えているところでございます。それでは、ご審議のほどよろしくお願いいたします。以上でご挨拶とさせていただきます。

【荒田政策企画課長】

ありがとうございました。それでは、以降の進行につきましては、星野市長にお願いをさせていただきたいと思います。星野市長よろしくお願いいたします。

【星野市長】

それでは、まず議題に入ります前に、本日の会議録の署名委員の指名をさせていただきます。署名委員には宮委員、深野委員にお願いをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

たします。

それでは、本日の議題、先ほど申し上げました2点でございます。こうした状況の中で、これまで市長部局で議論させていただき、教育委員会とも意見交換をしながらまとめてきたものを、教育政策課の中島課長、そして公共施設マネジメント課の甲佐課長より説明をさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

【教育政策課 中島課長】

(小・中学校プールの共同利用について説明)

【公共施設マネジメント課 甲佐課長】

(学校施設における公共施設マネジメントの推進について説明)

【星野市長】

中島課長、甲佐課長ありがとうございました。今日この学校の小・中学校のプール並びに公共施設マネジメントについての考え方、そして推進状況、今後の課題ということでご報告ご説明申し上げました。

まず、前段に説明いたしました小・中学校プールの共同利用について、南畑小学校と東中学校、水谷東小学校と水谷中学校ということで、令和4年度から検討を始め、令和6年度から、こうした形で実施をさせていただきました。この他については、まだ課題も多いこともあり、全ての小・中学校というわけにはいきませんが、このような対応をとっております。また、ここから新たな方法論なども、見出していかなければならないと思っております。

まずは、小・中学校のプールの共同利用について、ご意見またはご質問を頂戴できればと思います。

【宮委員】

プールについては、いずれ古くなったプールの建替えというようなことも出てくると思います。先日、新聞で報道されていましたが、プールでの水泳授業をやらないということが出ていました。やらないということができるのかどうか、私も調べてみましたが、いわゆる学習指導要領には、小・中学校の時期に基本的な水泳の技能を身につけさせるといった内容が入っています。その中に、ただし書きがあって、水泳場の確保が困難な場合には、これを取り扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得は座学でもよいからしっかりとやりなさいというように書かれています。

プール自体は、もしなくなった場合のことを考えたときに、今ある学校プールを修繕など、いろんな形で補って続ける、これが一つの方法で、二つ目は、今、富士見市でやられている共同化みたいな形です。学校プールを小学校など中学校、近場で共有化するあるいは拠点化するというやり方。あとは公営プール、富士見市にはこのようなプールがありませんが、市民プールがなくなったときに、やっぱり子供たちが一番残念がっていたと思います。泳げる場所がないということで残念がっていたということで、これから先はわかりませんが、公営プールを一つ、市の中心に作るということも考えられる。それと、あ

とは民間のプールに委託するという形で、富士見市の中では民間に委託するようなプールというのはなかなかないですけれども、例えば254バイパス沿いの城北埼玉高校がありますけれど、そこでもスイミングスクールの様なものを行っている。あるいは、場所は三芳町になりますが、西中学校の近くにスイミングスクールもある。そのようなことを考えると、民間のスイミングスクールも当たってみることはできるのではないかという気がします。

あともう一つは、最終的に水泳の授業をやらなくて、座学にするというようなこの5つの方法しか考えられないです。

この後の公共施設マネジメントもそうですけれども、やっぱり今現在考えられるのは、子供たちが楽しく授業を受けられて、安心して安全な環境を設置するというのが、私の頭の中では第一に考えなければならぬので、財源の課題というのはあると思いますけれども、やっぱり子供たちにとってはその環境が大事なのではないのかなというふうに思います。

プールに関してはこうだという形では言えないですけれども、消去法で消していくと、プールの拠点化など、あるいは修繕で補っていくかというところではないかと思います。建てるのにもすごい費用がかかるでしょうし、民間も少ないというようなことがあったりするので、民間に委託したとき、拠点校の方法にしてもそうですが、そこへ行くまでの子供たちの移動手段はどうか、バスを借りるだなど、そのバスでの事故はどうかなど、いろいろなことがデメリットとして出てくると思います。ただメリットも多いと思います。教員ではなくて、いわゆる専門のインストラクターに教えてもらうから、泳ぎ方などは上手になるでしょうし、子供たちにとってはいろいろなメリットとデメリットというのは考えられると思いますけれども、その辺も財政面だけではなくて、考えていく必要が多分にあるのではないのかなというふうに、結論ではなく、考えだけを述べさせてもらいました。

【星野市長】

ありがとうございます。プールについては、令和4年以降、私を含め検討する会議も何回ありました。また、先生方にこのプールまたは施設の再編マネジメントについても打ち合わせをする中において、議論をさせていただきました。プールについては、今できることはやろうということが、今回の南畑小学校・東中学校、水谷東小学校・水谷中学校ということだと思います。今申し上げた通り、修繕を極力抑えながら共同利用できるかどうかなどです。

今、いろいろなパズルを試しながらというのが現状で、まだ我々も答えを持っていません。また、民間を利活用するということも選択肢としては外さないということも考えの中に入っておりますので、今、宮先生おっしゃっていただいた5つの方法論について、プール授業をやめてしまうという乱暴な議論だけはしたくないと思っております。後で山口先生からもコメントがあると思いますが、このように私は考えております。

水泳、着衣泳、これは危機管理になりますかね。そういったことも含め子供たちが安心して水遊びができる。学校でトレーニングをしたから川遊びしたときに助かった、そうしたことに繋がっていけばと思っておりますので、やっぱり水に入るということは、私は市長としては、これを排除するというわけにはいかないと思っておりますので、四つの方法

論をパズルとして組み合わせていく以外ないのかなと、私自身の考えです。他にいかがでしょうか。山口先生よろしいですか。

【山口教育長】

今、市長がまとめていただいたと考えていますので、同じ考えです。

水泳の授業は、子供たちの生命を守る、自ら命を守るために必要な授業だというふうに私は捉えているので、そのためにはプールは必要な施設ですが、それが学校になればならないかということは考えていい時代になっていると思いますので、公共施設マネジメントの観点でいけば効率的な運用はどうあるのかということを考えて、一步踏み出したのが、隣接学校の共同利用ですから、この方法がどこまで広げられるのか、または市内には限られるけれども、民間の施設が利用できるのか、さらにはもっと効率的な運用があるかということは、これからも考えていかなければならないと思っています。以上です。

【星野市長】

はい、他の委員さんはいかがでしょうか。

【深井委員】

ちょっと疑問というか、役割分担の部分で、水調整など塩素濃度調整などというのがあって、その薬剤購入は、それぞれの学校というふうになっているんですけど、このそれぞれの学校というのは、借りる学校も一緒に薬剤を買っておいて、持っておくということなのでしょうか。それで、使うときに塩素濃度が足らなければ投入して足すなどというそういうことなのでしょうか。

【教育政策課 中島課長】

共同利用の場合には、出先の小学校のプールに持って行って投入する。小学校が使うなら小学校が買った塩素を投入し、中学校が使うなら中学校の予算で買った塩素を投入しという事で、それぞれの学校で負担しましょうといったものです。

【深井委員】

一日に、小・中が一緒に使う日はないのですか。

【教育政策課 中島課長】

今回はありませんでした。仮にあったとすると、小学校のプールだと水量が少ないので、中学校だと水を足します。足すと塩素の濃度が薄まってしまうので、中学校で買った塩素を入れるということは、今後はありうると思います。

【横田委員】

市長、教育長の話にあったような対策に尽きると思うのですけれども、ただその小中と一緒にプールを利用するというのは、やはり地理的な問題など、生徒数のことを考えると、なかなか今、この4校で実施しているのですけれども、これから増えるという前提になるの

か、予測が僕には分からないですけれども、もしそれが今なかなか難しいということであれば、民間委託での授業ということも視野に入れて進めていくべきじゃないかと考えています。プールの授業が、年間10コマということですが、座学を含めるとすれば、座学が半分で残りの半分が民間プールへ行くということであれば、更衣の問題や指導者の問題など、様々なものが軽減されてくるのかなと考えています。そちらを今一歩先に進めたらよいのではないかと考えています。

【星野市長】

深野委員さんいかがでしょうか。

【深野委員】

最初、こんな大変ならなくてもいいのかなとちらっと思ったんですが、でも私もやはり自分の子供の命を守るために泳げるようにと思って、スイミングクラブ行かせたので、やはり必要だとは思っています。やっぱりちょっと離れたところだと難しいですが、この共同利用しているところがうまく進めばいいなとは思っています。

それと、夏休みなどにまとめてというのは無理なのですかね。そんなことも考えながら、あと確か近くの民間のプールでお休みのときにどこかの小学校が使っているという話も聞いたことがありますので、活用は可能かなとは思っています。何かうまい方法が見つかるとうまいと考えています。

【星野市長】

民間利用は、ふじみ野と三芳もでしたか。

【山口教育長】

はい、ふじみ野と三芳というふうに報告を受けています。私が現場で教員をやっていた頃は夏休みのプール開放というのをやっていたから、利用は可能なのですが、それはカリキュラムにある授業としてではなくて、夏休みの補習のような形で、やっていました。夏季休業を設ける趣旨からすると、夏休みに授業をやるのであれば、別の期間に休業日を設けるなど、カリキュラムの大きな編成が必要なのと、昨今の暑さでいくと、最も暑いピークのときにプールに入れたくても入れられないという屋外プールですので、温水プールがあれば、一年中、ある程度一定の環境の中でスケジュールを調整して利用可能というふうに考えますけれども、なかなか現実的に難しいかなと。

【星野市長】

ガーデンビーチを閉めましたのちに、一昨年からはじめていたのですが、小学校を3つ選定して、夏休みのプール開放をすでに始めています。2年間運営した結果ですが、真夏の暑さが凄まじいので2週間ぐらい用意していても、半分ぐらいは閉めざるを得ない。雨の日もありますから、そういった現状などもありました。水温と気温が何度以上になった時には閉鎖すると、使わせないとといったことでプール開放事業については行っておりました。ただ、おいでいただく時間帯によってはたくさんの子供たちが学校の枠を越えて、諏訪小

学校と関沢小学校とみずほ台小学校だったかな、これは市長部局でやっております。

来年度は、色々ご要望等もあり、未就学児にも開放しようと、ただ親御さんと一緒に入っていただくことで、小さなお子さんにもご利用いただけるようにして、下に台を置いて入れてプールの水深を一部浅くする場所を設けるというようにして今年度は実施したいと考えております。その代わり、開放する学校を3つに減らして実施して、小さい子供たちも入れるようにと考えております。結論はなかなか出ませんが、ただ我々としてはこれを決めていかなければなりませんので、いただいたご意見を参考に進めさせていただきたいと思います。

次に公共施設マネジメントということで、甲佐課長からご報告、ご説明させていただいた部分でございます。ご意見ご質問を頂戴したいと思います。

【横田委員】

すごくボリュームのある内容で、それから、我々も知り得なかったことが、データとして出ているので非常に貴重なものかなとは思っています。ただ、残念なのは令和2年度というと、今から4年ぐらい前の数字なのでその辺は心配しているのですが、ちょうど1950年代から60年代にかけてベビーブームで子どもたちが増えてきた流れの中で、校舎や、先ほどのプールもそうだったと思うのですけれども、老朽化が進んでいるため、これは当然、長寿命化という視点で解決していくことが一つの方法だとは思っています。ですので、ぜひそれを進めていっていただければと思っています。

今度、市役所が建つという方向で考えているのですけれども、カーボンニュートラルって広い意味でこれからどうするのかということを考えたときに、日本列島を空から見ると、人家がなくて海岸線、河川、上から見ると、ほとんど緑、森林です。それで、その森林の利用率が非常に悪い。コスト面で木材が安いなどの問題があって林業の関係者が少なくなっているのですが、やはりポリシーとして新しい市庁舎を建てるとすれば、そういう木質化を第一に進めていくことで、市民の理解は進むのではないかなというふうに思っているのですが、器だけ作るというよりも、中身はこういうことですよというポリシーで押し進めていくということが、大切なんじゃないかなというふうには思っています。

それから、金属疲労など劣化についていろいろ言われていますが、例えば今、東京都の板橋区で、夢のマンション団地だった高島平を解体しようという動きが出ていますね。高層化するという考えがあるようです。そのメリットは確かにありますが、今住んでいる人たちにとってはだいぶ不便になるという、そういう新しいことをすると、必ずそれに対する弊害も出てくる。それをコントロールしていくのがやっぱり行政の役目だと思っています。

正直言って市役所もすごい老朽化していますよね。ですので、新たに建てるとすれば、そういうカーボンニュートラルも含めた木質化、木材をふんだんに使って、耐久年数の問題はあるかもしれませんが、CO₂の保持率などを考えれば木材の方が圧倒的に利用価値は高いというふうに思いますので、ただコスト面で木材が高くなってしまうかもしれないのですが、そういったポリシーで公共施設マネジメントを進めていければ良いと思います。

とりあえずこのデータはすごく良かったので、多くの人たちにこういう現状だというの

を知らせていくべきだと思いました。以上です。ありがとうございます。

【星野市長】

ありがとうございます。現状として木質化については、改修をする小中学校については、必ず木質化、そして県内産ということで指示を出しております。それから、昨年ときがわ町とこのカーボンニュートラルのカーボンオフセットの事業を締結しました。

ときがわ町が持つ町有林の1.9ヘクタールを、富士見・ときがわ交流の森ということで指定をしていただいて、我々の予算、いわゆる森林環境税を基金化しておりますので、この財源を使って向こう8年間、我々のお金でときがわ町の森林を整備していくというものですが、もう間もなく伐採を迎えるエリアがその1.9ヘクタールの中にありまして、これを伐採して木材にします。その一部、ときがわ町から出たヒノキで、ときがわ町の大工さんにベンチを作っていただいて、これを買おうと、いったことも行っております。これを8年間ぐらい続けていこうということになりますが、時期によってその予算の大小はございますが、今回は伐採がありますので、少し大きいお金とあとは草刈りなどです。

そういった事業をカーボンオフセットとときがわ町と富士見市との交流とセットで行っていきたいと考えています。今日総務部長がこの本庁舎の整備の担当部長でありますので、今先生からが出たご意見についてお願いします。

【古屋総務部長】

新庁舎整備については、設計にこれから入る段階になり、事業者を決定しました。設計の前にどういったコンセプトの新庁舎を作ろうかということで、基本計画を令和5年度に策定をいたしました。

その考え方として、今横田委員からお話あった、木材の利用についても触れています。それで、その中で木材を使用する場合は、県産材の木材の使用についても十分検討しようといったところになっていますので、そういった理念は今持っているところです。これから設計に入っていくわけですので、具体的な部分に入ったところで、当然、部材の価格など、いろいろあろうかと思います。それはイニシャルの部分もあるでしょうし、中長期的なランニングコストなどといったものを見ながら、しっかり検討していくということになろうかと思いますので、今いただいたご意見のところも、入れ込みながら、木造というのは難しいところがあるかと思いますが、木材の使用については検討していくといったことになろうかと思います。

あと、この資料にもありましたZEB（ゼブ）というところで、今、水谷小をNearl y ZEB（ニアリーゼブ）にしたのですが、75%削減するというものになっています。いくつか段階がありまして、50%というものもあります、ZEB Ready（ゼブレディ）って言います。新庁舎においても、このZEB化に取り組みましようということでやっておりますので、ゼロというのが一番理想になりますが、なかなかそこは難しいとしても、これにより75%減や50%減など、いろいろあろうかと思いますが、これについても検討していくといったところです。温暖化対策といったところも視点に置きながら、ZEB化事業についても取り組むこととしてございます。

【星野市長】

あと、私が市長になってからの平成29年に、方針として、富士見市市有施設の木造化、木質化等に関する方針ということで方針を定めておりますので、今日の課題である小中学校体育館も、それから市役所等もこの方針に則って頑張ります。他にいかがでしょうか。感想などでも結構でございます。

【横田委員】

今、ZEBという話が出たのですけれども、よく民間住宅なんかのZEH（ゼッチ）というのは、例えばZEBというのはビルディングなのだけれど、ZEHというのはハウスということになってくると思います。

ですから、一方で新庁舎をZEBでやるという場合は、民間で戸建てを建てる際などにそういうものについては、やっぱりZEHに対しての補助などということも考えられるかと。市が補助というのはなかなか難しいと思うのですが、一時期環境庁がそれを補助していた時期があったと思います。

そういうことをしていくことで、地域全体での発展に繋がっていくのではないかなと考えています。あと、先ほど市長が言われたとき、その話僕はすごく素晴らしいなと思っていました。子供たちに伐採した後の植林などを環境教育の中でできると良いと思います。

【星野市長】

ありがとうございます。環境課がこのカーボンオフセット、ゼロカーボンについて主管課として進めております。環境課が持っているメニューもまだまだ拡充の余地がありますので、いただいたご意見を部長、課長にもお伝えさせていただきたいと思います。

ありがとうございます。深野委員いかがですか。

【深野委員】

今の個人のお宅でというのは、知り合いで、一人聞いていまして、自分の家で発電ができてというのがとても良いと思っていました。

それとこの間、勝瀬中学校へ行って、新しい体育館を見たのですが、やっぱり明るくて、天井は変わらないと思うのですけれど、高くなったような感じ、広くなったような感じを受けました。勝瀬小学校も行った際にやはり木が多く、日本人は木の方が肌に合うというか、安心感があると思ったので、木質化はぜひお願いしたいと思います。

すみません、ちょっと話は変わるのですが、ふじみ野小学校ができたときは、新しく綺麗でバリアフリーで、将来的には福祉施設でも使うことを考えてというふうに聞いていたのですが、やはりコンクリートの冷たさが感じられて、そこはやっぱり時代なのではないか、あの頃の建築では最新だったと思うのですけれど、ちょっと残念だなと考えています。

以前に志木市の志木小学校へ見学に行ったことがあるのですが、教室というか仕切りがなく、スペースが広く保たれていて、公民館など図書館が一緒になっていると聞いたので、そういうのも今後考えられるのかと思います。公民館もだいぶ古くなってきているので、

そういったことも考えると、少しずつ地域でまとまっていくと良いと思います。皆さんの意見があるでしょうから、なかなかうまくまとまらないとは思いますが、小学校と公民館の生涯教育が一緒になると、双方ともに、よいものが出てくるのではと期待しています。

【星野市長】

ありがとうございます。これは私の私見ですが、統廃合は学校だけではなく、その周辺にコミュニティーセンターや公民館があるとすれば、そうしたところも学校内に移してくるなどして複合化するということがよいのではないかと考えています。課長いかがですか、そのご意見に対して。

【甲佐課長】

複合化については、例えば今おっしゃっていただいた通り学校教育と生涯学習とのコラボレーションというか、新たな創造が生まれるというメリットもあると考えていますし十分に検討すべきことと考えています。

ただ逆にデメリットとしては学校の中に不特定多数の方が入られるなどで、今度安全面をどうするかなど、そういった新しく起こる問題に対しても配慮が必要だと思っておりますので、おっしゃっていただいた通り、その地域の方々の思いも含めて、いろんな角度から検討していくことが必要だと考えております。

【深井委員】

工事をしなきゃいけないのはすごいよくわかるのですが、どこから最初に工事に手をつけていく順序になっているのか知りたいと思っていたのですが、鶴瀬小学校が58年で一番長いのですが、老朽化が一番進んでいる学校は鶴瀬小学校なのでしょうか。

【甲佐課長】

学校の工事の順番は、一つの目安としてその建物の古さというところもあるのですが、古さのみならず先ほど説明した中性化が進んでいるところから、対応すべきだと考えております。単に学校といってもB棟とC棟みたいな形で複数校舎が分かれておりますので、中性化が進んでいる校舎を早めに対応することが望ましいのかなというふうに考えておまして、先ほど若干触れましたが、例えば中性化が若干進んでいるかなと懸念されるのが水谷小学校の北校舎であったり、あと、関沢小学校であったりというところではあるので、単純な古さのみならずそういった状況も見ながら、順番を決めていきたいので、そのスケジュールリングを今、調整しているところです。

【星野市長】

はい、ありがとうございます。宮委員お願いします。

【宮委員】

私も木質化については素晴らしいなと思っていて、木の香りなどは子供たちにとって、生活しやすく落ち着きが出るのではないかなというふうには思っています。1点だけ

基本的な質問ですが、木質化と、いわゆるコンクリートは寿命的にはどうなのでしょう。それとあともう一つは、子供たちにとって壁というのは一番遊び場じゃないですが、色々なものを書いたり、自分の作品を貼ったりというような形で、画鋏を使ってそういったことが出来るわけなのですが、それは木質化においても大丈夫だということを聞かせてもらって、本当に周りに木があるということで子供たちも精神的に落ち着くというのはあると思います。そういう面ではどんどん進めていってもらいたいと思っています。

【星野市長】

木造の高層建築みたいなものが、7階建てから10階までぐらいまでは、今の技術でできるようになって、木造で作る構造物を、住友さんなど大手さんが頑張って10階ぐらいまではできると。

今回の木質化は鉄筋コンクリート造で作った私どもの小学校中学校について、意匠的に床や壁の張替えを木質化して行う、だからコンクリートを隠すということなのでしょう。

【甲佐課長】

今おっしゃっていただいているように構造自体は、大きな建物になるのでどうしても鉄筋コンクリートなどという形になっており、その壁、内装などの一番子供たちに触れる部分を木質化しているというのが、今の大規模改修等々で実施をさせていただいているところでございます。仮に、その構造自体を木造化したらどうだということになりますと、一般的に言われているのが、鉄筋コンクリートで60年、木造だと40年というのが一つの目安と言われておりますので、若干やっぱり木造の方が耐性的には短いような形になるかなと思っております。あくまで先ほど画鋏等の取り扱いというお話もありましたけれども、そういったところを、大規模改修をやる際に学校の希望もお伺いをさせていただいて、例えばここにこういうものを貼りたいというようなことがあれば、そこは壁材を変えるなどそういった工夫もできますので、どういった使い方をしたいのかということを十分に学校側と協議をしながら対応していければと考えております。

【星野市長】

ありがとうございます。最後に、山口先生いかがでしょうか。

【山口教育長】

児童生徒等の減少が予測される中で、公共施設マネジメントの関係で効率化を図るということは必要になってきます。

それでもう一つは、富士見市としては、つるせ台小学校という再編統合の成功例を持っていると思っていて、私も上沢小学校に、単学級で勤めていたので、その上、小規模化していて老朽化している上沢小学校と鶴瀬西小学校を統合して新設校を作って、しかも、先ほど説明のあった縮充など、多様な学び方に合わせた校舎にするなど、校舎の充実を図っていただいているんですね。今回水谷小の児童増に合わせて増築をしてもらいましたが、これも多様化に合わせた校舎の充実を図ってもらう、そういったことで方向性として

は、富士見市として先例を持っている。ただ立地的な条件など、やっぱり地域住民、保護者の理解をどう得ていくかというプロセスを大事にしていくこと、まずは現状を丁寧に説明して、方向性についてキャッチボールをしながら進めることは、甲佐課長の説明の中にもありましたけども、私も大変重要なポイントだというふうに思っています。

あとは、市全体としては子供が減少していきますが、相対的にというのかな、今、ご存知のように学校区によって、まだ増えていたり、急激に減ったりという違いがあるので、今後の減少の見通しをやっぱり見ていくことも、なかなか難しいのですが、今後生まれる子どもの数を想像しなければいけないので、結局、計画を持ってから実際に建物を建てたり、改装したりするのに5年から10年見なきゃいけないというのは、その予測を慎重に行いながら、市長部局と一緒に考えていく。

最後にお礼、この機会にお礼申し上げますけれども、勝瀬中学校と水谷中学校の長寿化、1年目を進めていただいて本当に素晴らしい体育館になり、良好な環境が整いました。これまで学校環境については、いろいろ改修も含め、ニーズに合わせて市長をはじめ市長部局の皆さんにご努力いただいて環境を整えていただき、お礼を申し上げます。ありがとうございます。

【星野市長】

はい、ありがとうございました。今日は大変重要な議題ということで、プールそれから公共施設マネジメントについてご説明ご報告をさせていただき、議論ご意見を頂戴しました。ありがとうございます。

なかなか決めづらいところがありますが、これは躊躇できませんので、我々としては、今後この公共施設マネジメントについてプールも含め、しっかりと議論をさせていただき、早晚そんな先ではなく、地域に対してモデル地域を決めさせていただき、その地域の町会、まちづくり協議会、地域にある団体の皆さん、もちろんお父様お母様等々、そうしたモデル地域を定めて具体的に公共施設マネジメントの考えをお示しさせていただき、最適な解を見つけられるよう、実際に地域に入ってまいります。これは2年先だ3年先だとは言っていただけませんので、そうした考えを持って、進めさせていただきたいと思います。

今日貴重なご意見、またご質問などを頂戴いたしました。ある意味、まだ地域に入っておりませんから、市民の皆さんにお聞きいただいて、教育委員の皆さんですけれども、お声をいただいたということは初めてだと思います。こうしたことをこれから数多く繰り返しながら、ただいま申し上げた通り最適な解を見つけてまいりたいと思います。また、いろいろと教育に関する課題につきましては、市長部局、教育委員会とともに連携をしっかりとさせていただいて、この事業を進めてまいりますので、また、総合教育会議の題材として、適当な時期に進捗報告をさせていただきたいと思います。

今日は誠にありがとうございました。それでは会議の方をこれで閉じさせていただきます。

【荒田政策企画課長】

ありがとうございました。事務局よりご連絡をさせていただきます。本日、議事録署名委員に指名されました宮委員と深野委員におかれましては、後日、会議録がまとまり次第、

ご連絡させていただきますので、ご署名をお願いしたいと思います。

ご連絡は以上でございます。

それでは以上をもちまして本日の総合教育会議を閉会とさせていただきます。委員の皆様、どうもありがとうございました。